

新規事項

水害リスク情報の充実(浸水想定区域図・ハザードマップの空白域の解消) (1/2)

- 近年、中小河川等の水害リスク情報の提供を行っていない水害リスク情報の空白域で多くの浸水被害が発生。
 - 水害リスク情報の空白域を解消するため、水防法を改正し、浸水想定区域図及びハザードマップの作成・公表の対象を全ての一級・二級河川や下水道※に拡大。
 - 洪水浸水想定区域図は令和7年度までに完了を目指し、雨水出水浸水想定区域図は令和7年度までに8割完了を目指す。
- ※全ての一級・二級河川や下水道とは、住宅等の防護対象のある全ての一級・二級河川や浸水対策を目的として整備された下水道のこと。

■水害リスク情報の空白域において浸水被害が多発

・令和元年東日本台風では、堤防が決壊した71河川のうち43河川(約6割)、内水氾濫による浸水被害が発生した135市区町村のうち126市区町村(約9割)が水害リスク情報の空白域。

水害リスク情報の空白域における水害事例

宮城県丸森町

水害リスク情報空白域における浸水被害

凡例
×: 人的被害

まるもりまち あざしんめいのみなみちない
丸森町(字神明南地内)の被災状況
(令和元年東日本台風)

佐賀県佐賀市

中心市街地の浸水
(令和元年8月の前線に伴う大雨)

■水防法を改正し、浸水想定区域の指定対象を拡大

・河川(洪水浸水想定区域)では約15,000河川、下水道(雨水出水浸水想定区域)では約1,000団体が新たに指定対象として追加。

河川

水位周知河川
洪水予報河川

改正前 約2,000河川

住宅等の防護対象のある中小河川

水防法改正により拡大 約15,000河川

下水道

水位周知下水道

改正前 約20団体

住宅等の防護対象のある下水道

水防法改正により拡大 約1,000団体

新たに指定対象となる河川及びその洪水浸水想定区域(イメージ)
公表されている洪水浸水想定区域

浸水想定区域(洪水及び雨水出水)の指定対象数

指定対象河川の拡大イメージ

	浸水想定区域図	ハザードマップ
河川(洪水)	令和7年度までに完了※	令和8年度までに完了目標
下水道(雨水出水)	令和7年度までに約800団体完了※	浸水想定区域図作成後速やかに作成

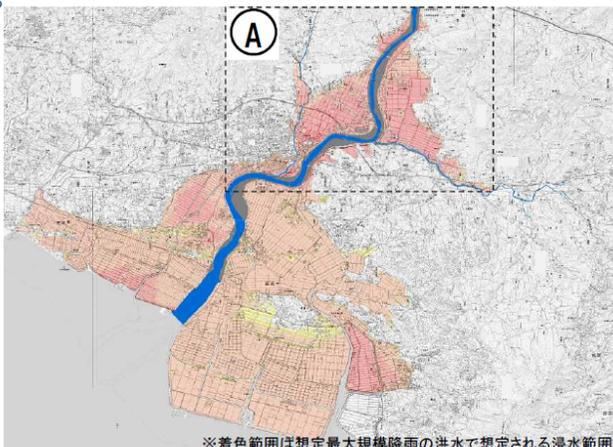
※ 第5次社会資本整備重点計画KPIIIに位置付け

水害リスク情報の充実(水害リスクマップ(浸水頻度図)の整備)

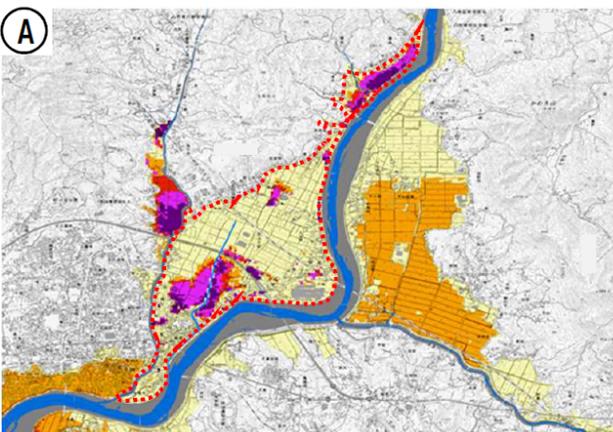
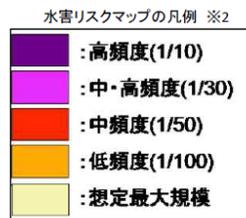
- 従来、想定最大規模降雨の洪水で想定される浸水深を表示した水害ハザードマップを提供し、洪水時の円滑かつ迅速な避難確保等を促進。
- 今後は、これに加えて、浸水範囲と浸水頻度の関係をわかりやすく図示した「水害リスクマップ(浸水頻度図)」を新たに整備し、水害リスク情報の充実を図り、防災・減災のための土地利用等を促進。

水害リスク情報の充実

○水害ハザードマップ



○水害リスクマップ^{※1}



※2 上記凡例の()内の数値は確率規模を示していますが、これは例示です。

※1 当資料の水害リスクマップは床上浸水相当(50cm以上)の浸水が発生する範囲を示しています。(暫定版)

水害リスクマップの活用イメージ

現在の水害リスクと今後実施する河川整備の効果を反映した将来の水害リスクを提示し、以下に取り組む

- 住居・企業の立地誘導・立地選択や水害保険への反映等に活用することで、水害リスクを踏まえた土地利用・住まい方の工夫等を促進
- 企業BCPへの反映を促進することで、洪水時の事業資産の損害を最小限にとどめることにより、事業の継続・早期復旧を図る

現在(外水氾濫のみ)

整備後(外水氾濫のみ)



【令和4年度の国土交通省としての取組】

- ・全国109の一級水系において、外水氾濫を対象とした水害リスクマップの作成を完了させるとともに、先行して、特定都市河川や水災害リスクを踏まえた防災まちづくりに取り組む地区において、内水も考慮した水害リスクマップを作成

令和3年度 常呂川流域治水協議会（勉強会） 速報版

－住民参加を取り入れた流域治水の取組－

令和4年1月25日にWEB会議にて、「令和3年度 常呂川流域治水協議会（勉強会）」を開催しました。

- 開催日時 令和4年1月25日(金) 14:00 ～ 16:00
- 実施場所 WEB開催
- 参加機関 北見市、北見市常呂総合支所、北見市日吉町内会、訓子府町、置戸町、オホーツク総合振興局、網走開発建設部 計 7機関 20名
- 勉強会の目的
 - ① リスクマップがどのようなもので、どのような情報が得られるのかを理解する
 - ② 今後の水災害に関するハザード情報（リスクマップの情報）の扱い方を理解する
 - ③ リスクマップに対する自治体・地域住民の目線で見た場合の意見を伺う

1. 流域治水及びリスクマップの説明

近年の水災害発生状況や、流域治水の概要と全国での取組事例、リスクマップの必要性のほか、現在公表されている浸水想定区域図とリスクマップの相違点等を説明しました。



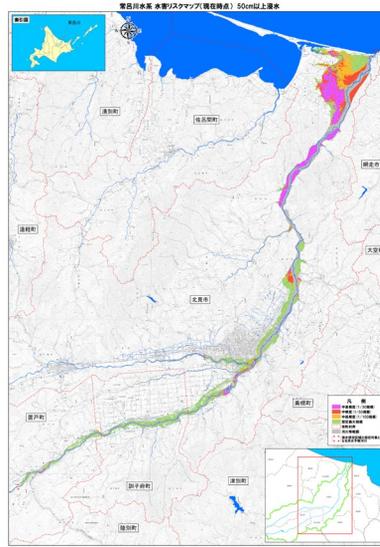
事務局からの説明状況

2. リスクマップの確認、意見交換

リスクマップの見方について説明を行った後、事務局が設定した地点と、参加者が選んでいただいた任意地点のほか、個人の懸念箇所の浸水リスク情報を確認し意見交換を行いました。



リスクマップ確認状況



常呂川リスクマップ

資料4

4. リスクマップチェック資料(1地点目)

(1) 確認地点はどこですか？

(2) 確認箇所の浸水はどのような状況ですか？

状況 (想定年度)	0cm以上浸水	50cm以上浸水	1m以上浸水	備考
短期中 (近3年度末)				
中長期 (近7年度末)				
想定最大規模				

(3) 確認地点付近で異なった点

リスクマップチェックシート

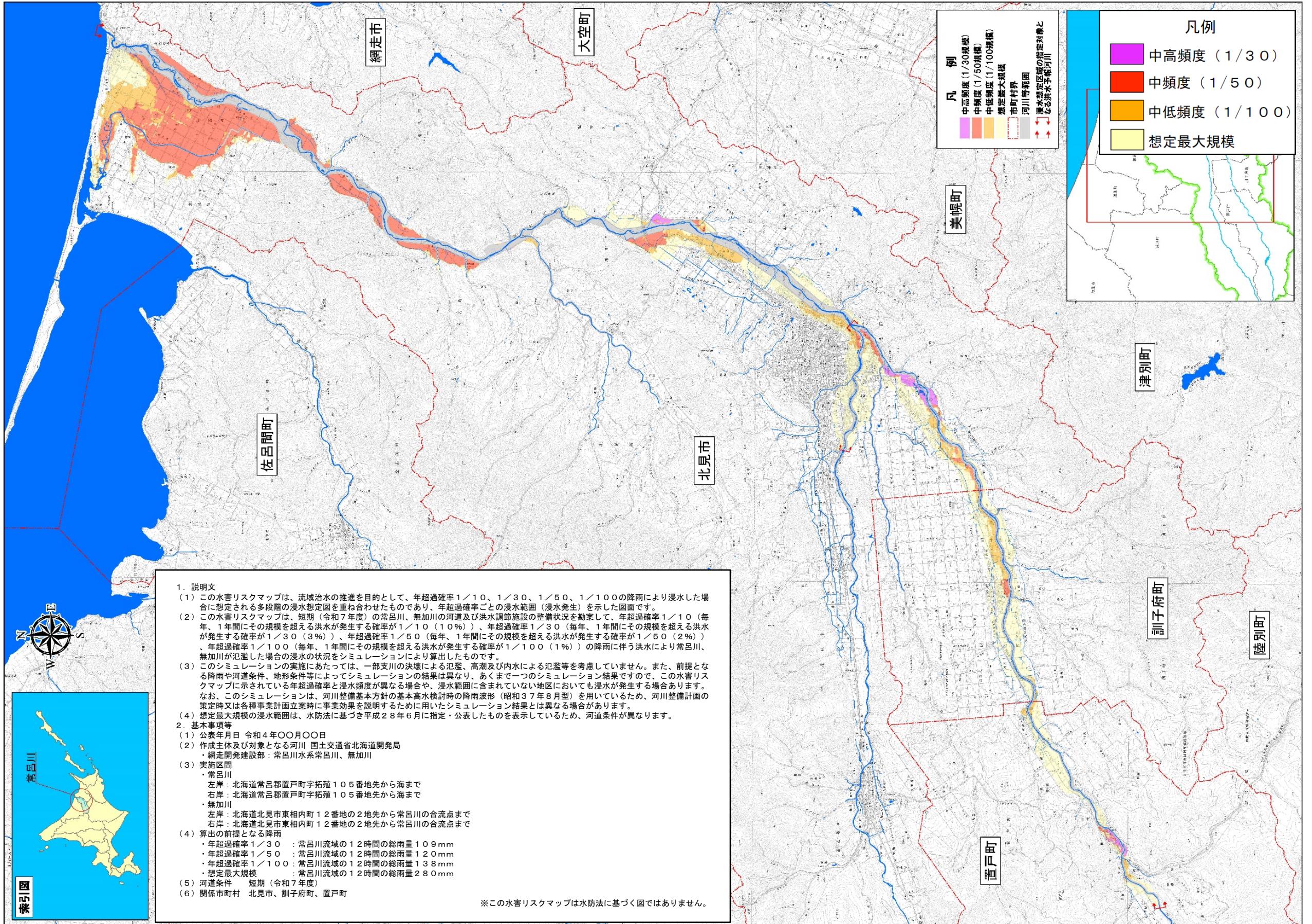
自治体職員、住民からの主なご意見

- 公表されている計画規模と想定最大規模の図を見て、かなり差があると感じていたが、1/30や1/50の高頻度の確率規模における浸水状況を確認できるリスクマップを今後参考にしていきたい。しかし、図面の枚数が多いので、見やすくする工夫をしてほしい。
- 住民にわかりやすく説明する方法を模索していきたい。
- 住民の多くが高齢者であり、できる限りシンプルな内容で理解浸透を図るために情報提供をしていただきたい。
- まちづくりに関して、リスクマップやハザードマップの今後の利用方法等を検討していきたい。
- 費用的に難しいかもしれないが、直轄河川だけでなく道管理河川や普通河川を含めた全体的な浸水リスクがわかるような図があればよいと思う。
- 今回初めて流域治水及びリスクマップの資料を見たが、内容的に難しいと感じた。また、図面を見た際に、置戸町の浸水リスクが高いことが把握できた。

暫定版

【短期河道】

浸水が想定される範囲を表示



凡例

- 中高頻度 (1/30規模)
- 中頻度 (1/50規模)
- 中低頻度 (1/100規模)
- 想定最大規模
- 市町村界
- 河川等範囲
- 浸水想定区域の指定対象となる治水手帳河川

凡例

- 中高頻度 (1/30)
- 中頻度 (1/50)
- 中低頻度 (1/100)
- 想定最大規模

1. 説明文

- この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、年超過確率1/10、1/30、1/50、1/100の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定図を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲（浸水発生）を示した図面です。
- この水害リスクマップは、短期（令和7年度）の常呂川、無加川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率1/10（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/10（10%））、年超過確率1/30（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/30（3%））、年超過確率1/50（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/50（2%））、年超過確率1/100（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100（1%））の降雨に伴う洪水により常呂川、無加川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。
- このシミュレーションの実施にあたっては、一部支川の決壊による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この水害リスクマップに示されている年超過確率と浸水頻度が異なる場合や、浸水範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検討時の降雨波形（昭和37年8月型）を用いているため、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。
- 想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき平成28年6月に指定・公表したものを表示しているため、河道条件が異なります。

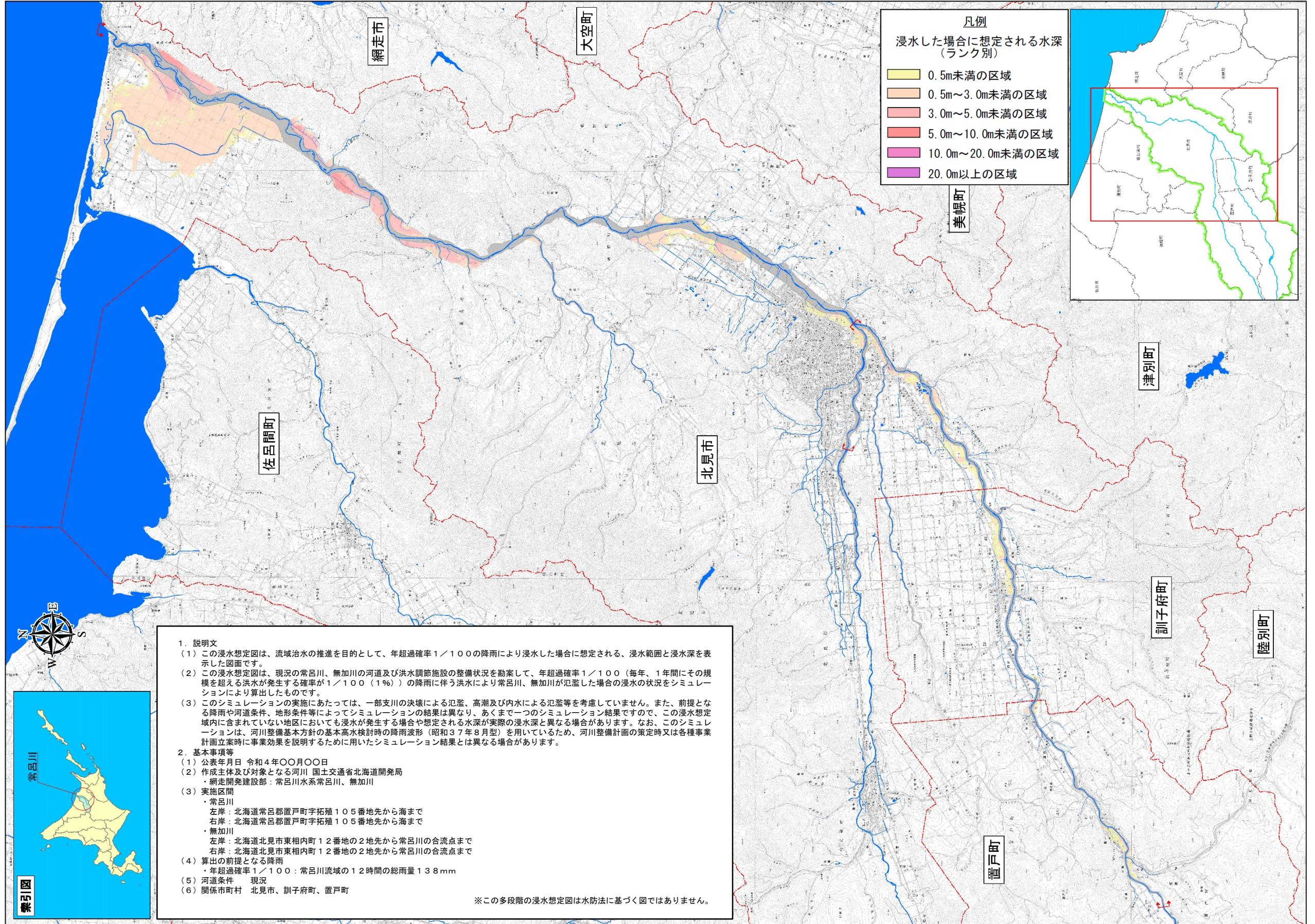
2. 基本事項等

- 公表年月日 令和4年〇〇月〇〇日
- 作成主体及び対象となる河川 国土交通省北海道開発局
・網走開発建設部：常呂川水系常呂川、無加川
- 実施区間
・常呂川
左岸：北海道常呂郡置戸町字拓殖105番地先から海まで
右岸：北海道常呂郡置戸町字拓殖105番地先から海まで
・無加川
左岸：北海道北見市東相内町12番地の2地先から常呂川の合流点まで
右岸：北海道北見市東相内町12番地の2地先から常呂川の合流点まで
- 算出の前提となる降雨
・年超過確率1/30：常呂川流域の12時間の総雨量109mm
・年超過確率1/50：常呂川流域の12時間の総雨量120mm
・年超過確率1/100：常呂川流域の12時間の総雨量138mm
・想定最大規模：常呂川流域の12時間の総雨量280mm
- 河道条件 短期（令和7年度）
- 関係市町村 北見市、訓子府町、置戸町

※この水害リスクマップは水防法に基づく図ではありません。



【現況河道】



- 凡例
浸水した場合に想定される水深
(ランク別)
- 0.5m未満の区域
 - 0.5m～3.0m未満の区域
 - 3.0m～5.0m未満の区域
 - 5.0m～10.0m未満の区域
 - 10.0m～20.0m未満の区域
 - 20.0m以上の区域

1. 説明文
(1) この浸水想定図は、流域治水の推進を目的として、年超過確率1/100の降雨により浸水した場合に想定される、浸水範囲と浸水深を表示した図面です。
(2) この浸水想定図は、現況の常呂川、無加川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率1/100（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100（1%））の降雨に伴う洪水により常呂川、無加川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。
(3) このシミュレーションの実施にあたっては、一部支川の決壊による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この浸水想定域内に含まれていない地区においても浸水が発生する場合や想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検討時の降雨波形（昭和37年8月型）を用いているため、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。

2. 基本事項等
(1) 公表年月日 令和4年〇〇月〇〇日
(2) 作成主体及び対象となる河川 国土交通省北海道開発局
・網走開発建設部：常呂川水系常呂川、無加川
(3) 実施区間
・常呂川
左岸：北海道常呂郡置戸町字拓殖105番地先から海まで
右岸：北海道常呂郡置戸町字拓殖105番地先から海まで
・無加川
左岸：北海道北見市東相内町12番地の2地先から常呂川の合流点まで
右岸：北海道北見市東相内町12番地の2地先から常呂川の合流点まで
(4) 算出の前提となる降雨
・年超過確率1/100：常呂川流域の12時間の総雨量138mm
(5) 河道条件 現況
(6) 関係市町村 北見市、訓子府町、置戸町

※この多段階の浸水想定図は水防法に基づく図ではありません。



【短期河道】

